

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立東大和高等学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

事務局長：総務部主任 事務局：総務部教員 計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任 進路指導部主任、生活指導部主任 計6名

(4) 協議委員の構成

学識経験者(駿台予備学校)、近隣中学校長、地域(東大和市教育委員会職員、東大和市青少年課職員、東大和市スポーツ協会専務理事、地域代表)、PTA会長 計7名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、内容、その他

第1回 令和6年5月17日(金)

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校運営連絡協議会の趣旨説明、学校経営計画
本校の取組目標と方策についての意見交換

第2回 令和6年10月17日(木)

授業公開、本年度の各分掌の取組に関する進捗状況の報告、教育活動の報告に対する意見交換
学校評価の内容検討、協議

第3回 令和7年3月5日(木)

本年度の各分掌の取組の結果報告、学校評価アンケートの結果と分析 学校経営報告
次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年10月17日(木)

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた内容・実施時期の検討

第2回 令和7年3月5日(木)

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、提言の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模 ()内は昨年度の数値

- | | | |
|------------|----------------------------|---------------------|
| ・12月 全校生徒 | 対象：815人 | 回収率：86.15%(101.59%) |
| ・12月 保護者全員 | 対象：815人 | 回収率：54.90%(29.58%) |
| ・12月 教職員 | 対象：44人 | 回収率：95.45%(81.81%) |
| ・12月 地域 | 対象：東大和市立第1, 2, 4中学校第3学年保護者 | 回収：126件(54件) |

○回収率について

生徒、教職員アンケートも「すべてのユーザーが回答できる」で実施しているが、回答していない場合に追いかけることができない。ログインしての実施への変更が必要と考えられる。

オンライン(Forms)にて実施三年目を迎え、保護者の回答率の向上みられた。「スタディサプリ ForParents」の既読数も8割を超えるようになり活用の広がりが見られる。また、地域からも126件と昨年から倍増した。

(3) 主な評価項目

・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全など

(4) 評価結果の概要 ()内は昨年度の数値

①教育目標の理解 肯定的評価

◇生徒 92.26% (91.77%)

1学年 89.72% (93.7%)、2学年 95.38% (90.46%)、3学年 91.46 (87.77%)

◇保護者 89.73% (90.40%)

1学年 93.38% (93.4%)、2学年 87.50% (91.43%)、3学年 87.72% (86.36)

◇考察 教育目標はしっかりと認識している状況である。

②教育課程 肯定的評価

◇生徒 83.24% (82.15%)

1学年81.86% (86.3%)、2学年88.70% (74.56%)、3学年77.83% (85.61%)

◇保護者 73.66% (79.95%)

1学年72.29% (86.79%)、2学年74.41% (74.29%)、3学年74.56% (78.79%)

◇考察

学校経営計画では授業満足度85%以上を目標として掲げ、教員相互授業見学や、10月には授業アンケートを実施し授業改善に取り組んだ。積極的な肯定(そう思う)の割合が低く10月に行った授業アンケート結果と共に魅力ある授業実践に努めていかななくてはならない。また、保護者においては低下がみられ授業についての発信の必要性がある。

③学習の機会 肯定的評価

◇生徒 80.37% (73.88%)

1学年81.02% (82.96%)、2学年87.82% (69.26%)、3学年71.37% (69.42%)

◇保護者 71.88% (45.24%)

1学年71.08% (51.89%)、2学年71.43% (41.43%)、3学年73.68% (42.42%)

◇考察

生徒保護者共に大きく向上することができた。特に長期休業期間講座の延べ参加者数は昨年と比べ4倍となり生徒も意欲的に参加する傾向がみられた。保護者へスタサプを活用し周知することも生徒の参加向上につながったと考えられる。

④進路指導 肯定的評価

◇生徒 87.97% (84.19%)

1学年86.11% (90.00%)、2学年90.79% (79.86%)、3学年85.08% (82.73%)

◇保護者 79.69% (77.97%)

1学年79.52% (88.68%)、2学年83.34% (78.57%) 3学年74.56% (66.67%)

◇考察

全体としては微増ではあるが、2、3年生では大きく向上することができた。1年生の生徒保護者にとっては不安要素もあり3年間を見通した進路指導を更に構築していく必要がある。今年度も全員三者面談を実施し家庭との連携にも取り組むことができた。進路指導は保護者並走型となってきており、きめ細やかな情報提供を今後とも取り組んでいく必要がある。

⑤規範意識 肯定的評価

◇生徒 94.27% (95.77%)

1学年91.62% (95.89%)、2学年95.81% (95.76%)、3学年94.27 (95.68%)

◇保護者 82.59% (80.23%)

1学年81.32% (64.15%)、2学年79.17% (87.17%)、3学年89.47% (89.39%)

◇考察

生徒の意識と保護者や教員との認識に差があることが心配である。今年度も自転車事故件数は少ない。生活指導案件は減少したが、身だしなみ等の課題は増えているように思える。継続して指導を続けていくことが必要である。

⑥学校行事の有用性 肯定的評価

◇生徒 92.26 (91.86%)

1学年87.04 (95.19%)、2学年95.40% (88.69%)、3学年91.93% (91.73%)

◇保護者 93.08% (94.17%)

1学年94.58% (97.17%)、2学年94.64% (94.29%)、3学年88.60% (90.91%) であ

◇考察

本校の特色の一つでもある課外活動(行事等)は生徒も非常に楽しみ活発に活動をしている。

⑦部活動の有用性 肯定的評価

◇生徒 89.97% (87.19%)

1学年87.41% (92.22%)、2学年91.63% (84.10%)、3学年89.11% (85.25%)

◇保護者 91.29% (89.98%)

1学年93.37% (90.57%)、2学年91.07% (90.00%)、3学年88.60% (89.39%)

◇考察

本校に入学する生徒のほとんどは部活動を志望理由として入学してくる。引き続き生徒も保護者も期待度が非常に高い。一方で自由意見では、否定的な意見も多く「これからの部活動の在り方」を踏まえ東大和高校らしい有意義な部活動の在り方について検証し改善を図る時期であると考える。

⑧下校状況 肯定的評価

◇生徒 88.68% (88.54%)

1学年88.88% (86.30%)、2学年86.61% (88.69%)、3学年88.68% (90.65%)

◇保護者 79.46% (85.71%)

1学年77.71% (89.62%)、2学年77.97% (85.71%)、3学年84.21% (81.82%)

◇考察

下校時間を守る取り組みを実施し、多くの部活動では早めに下校をするようになってきた。その反面、寄り道をする生徒を多く見かけるように思える。ルールへの厳守と共に時間の使い方の指導の必要性がある。

⑨SNSの利用状況 肯定的評価

◇生徒 97.42% (95.81%)

1学年94.91% (99.26%)、2学年98.32% (97.53%)、3学年97.45% (90.65%)

◇保護者 86.38% (81.21%)

1学年89.15% (82.08%) 2学年83.33% (84.29%)、3学年86.84% (77.27%)

◇考察

生徒の意識と保護者や教員との認識に差があることが心配である。常にスマホを触っている状況が日常化しており深く考えて使用していない可能性がある。今年度はSNSによるトラブル指導はなかったが、SNS等に関するトラブルは年々多様化しており、継続して学校として指導を継続していく必要があると考える。

⑩情報発信 肯定的評価

◇生徒 82.95% (77.5%)

1 学年 84.26% (80.74%)、2 学年 88.28% (74.20%)、3 学年 82.95% (77.70%)

◇保護者 80.80% (72.54%)

1 学年 84.94% (76.42%)、2 学年 79.76% (74.29%) 3 学年 76.32% (66.67%)

◇考察

ホームページでは週1、2回のニュースの他、古い情報の更新、PR 動画公開などに努めてきた。

Teams による情報発信も日々行っているが活用しきれていない生徒もおり更に改善しながら進め

ていく必要がある。「スタディサプリ ForParents」の閲覧率が昨年度6割程度であったが今年度は8割を超え、大きく改善した。学校からの発信も大きく増やすことができた。発信の偏りがみられるので有効的な発信に努めていく。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・学校生活における満足度は引き続き高く、特色でもある部活動において努力している生徒も多い。多様な生徒に対応しながら、東大和高校の良さを継続させていく。
- ・学習指導に関しては、新課程が導入され、評価評定等のより丁寧な説明が必要であり、魅力ある授業実践に努めていかななくてはならない。
- ・夏期講習を大きく改善することができた。生徒の学習に対しての意欲向上を図る必要がある。
- ・進路指導について組織的な体制作りを進めることができた。年内入試対策等に対応できるようにブラッシュアップしていく。
- ・変わらず自転車事故件数は増加している。当事者意識の低い状況も見られることから継続して指導を続けていくことが必要である。
- ・SNS等に関するトラブルは年々多様化しており、継続して学校として指導を継続していく必要がある。
- ・情報発信についてはより発信率を高め活用していく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・情報の発信が徐々に保護者に浸透している。さらなる活用が求められている。
- ・全般的にアンケートの肯定的評価は高いが、デジタル化等の社会の変化や、生徒の意識の変化（進学への意識、幼なさ）に対応していく必要がある。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・進路指導部を中心とした組織的な指導体制ができてきているが、1、2年生に対する指導や、保護者への情報提供がまだ十分ではない。1、2年次の指導計画を充実させ、生徒と同内容を保護者へも情報配信し、保護者を巻き込み進路意識を啓発する。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 最重要目標

「授業力の向上と生徒の学習・進路に対する意識の向上」

(2) 学習指導

- ・主体的・対話的で深い学びや、観点別評価を生かしたより質の高い授業への工夫改善

(3) 進路指導

- ・進路指導部を中心とした組織的な進路指導の実施 ・模試分析会の充実

(4) 生活指導

- ・基本的な生活習慣の確立（遅刻数の減少） ・交通安全意識の向上

(5) 特別活動・部活動

- ・部活動と学習、その他との両立 ・行事委員会を機能させる
- ・生徒が主体的に考える活動を推進し、Webサイトでの発信を強化し生徒の意識向上

(6) 健康・安全

- ・生徒支援委員会の活動をさらなる充実 ・生徒の変調の早期発見早期対応

(7) 募集広報活動

- ・効率的効果的な広報活動により、募集倍率の向上
- ・学校説明会を1回増やし、うち1回を土曜授業実施として、土曜日の授業公開と説明会の同時開催とする。

(8) 学校経営・組織体制

- ・グランドデザインを下に、学校の方向性の共通認識をもち、学校運営を進める。
- ・令和8年度の仮設校舎への引っ越しに向け、不用品の廃棄を計画的に進める。